

ベルマーク新聞 12月号

発行 公益財団法人ベルマーク教育助成財団 東京都墨田区両国3-25-5 JEI両国ビル9階 〒130-0026 電話 03-5638-2320(代表)
郵便振替口座 00100-7-56035 ホームページ https://www.bellmark.or.jp/

1枚1枚積み重ね、大きく実った

三重・玉城町立田丸小が300万点達成



①PTAベルマーク委員。中央のお子さんが手にしているのは、財団が贈った300万達成の感謝状 ②ベルマーク委員の子どもたち ③仕分けには透明のバックを活用
④子どもたちははさみを持ち、仕分けしやすい適度な大きさに切り揃えていく ⑤協賛会社のベルマーク番号が書かれた缶 ⑥正面入り口から見た校舎。財団職員が学校を訪れた日は快晴だった

三重県玉城町の町立田丸小学校（石井由美校長、児童 384 人）の累計集票点数が、今年 3 月に 300 万点を超えました。児童と PTA それぞれのベルマーク委員会が手分けして活動を進めています。

玉城町には小学校 4 校と中学校 1 校がありますが、田丸小は町内唯一のベルマーク運動参加校として広く知られています。毎月 10 日に児童からマークを回収するだけでなく、中学校からテトラパックを譲ってもらったり、以前田丸小に勤めていた先生や近隣のスーパーの協力も得たりと地域での活動も活発です。PTA ベルマーク委員会を担当する西岡里香先生が教えてくれたのは、匿名で届

いた手紙のエピソード。昨年、同じ県内から、ベルマークが入った封筒と手紙が届いたそうです。「田丸」と「貯まる」をかけて、「ベルマークたまると書かれていて、思わず微笑んだ」といいます。

児童のベルマーク委員会が担当しているのは、マークを切って協賛会社別に仕分けるところまで。全員が集まるタイミング以外に、午前の 20 分休みや昼休みにも交代制で活動しています。毎日、必ず誰かが仕分けしているというわけです。

PTA ベルマーク委員会には今年度、約 15 人のメンバーが所属しています。仕分け・集計をしたマークを年 3 回、学期末に財団に発送しています。

今回は、同委員会を担当する西岡先生を通して今年度と昨年度の委員長にお話を聞きました。

「前任者から活動内容を聞いて、やりがいがありそうと思い、ベルマーク委員を選んだ」のは今年度の委員長、出口久代さん。マーク仕分けは地道な活動ですが、「積み重ねが大きな金額になる」とも感じられたといいます。

出口さんの話に出てきた前任者で、昨年度の委員長を務めたのが神崎茜さん。3 年前からコロナ禍が続き、活動が進まなかったこともあって、ベルマークは貯まる一方でした。仕分けが終わらない大量のマークを目の当たりにして、「みんな

なが集めてくれたのもったいない」と奮起した神崎さん。委員会に、自主的に仕分けや集計をしてくれるメンバーがいたことや、点数が貯まる楽しさ、数字が反映される嬉しさを感じられたことも活力になり、在宅の時間も使いながら積極的に取り組みました。

田丸小は昨年 5 月、ワンタッチテントを購入。選んだ理由は、コロナ禍の運動会で応援席を作るのに、十分な間隔を取る必要があったからでした。西岡先生は「高額でなかなか買えない備品。大活躍でした」と話すとともに、「保護者・地域の方が子どもたちの教育に力を入れてくださっているからです」と感謝していました。

「誰かのためになる活動」って？

東京・大田区立雪谷小でベルマーク出前授業

東京都大田区の区立雪谷小学校（八木貴広校長、児童 764 人）で 11 月 15 日、ベルマーク財団の職員が出前授業をしました。5 年生が総合的な学習の時間にベルマーク運動を学んでいますが、調べ学習だけでは分からないことがあり、その疑問を解決することが目的です。

今年度、5 年生は「誰かのために動いている人」をテーマに学習を進めています。ベルマーク運動に参加している雪谷小の子どもたちにとって「ベルマークは身近な話題」と学年主任の田中芳明先生。「ただ、具体的にどのようなことが行われているのかは認識できていない。そこ

に学習のねらいがあります」

5 年生は 1 クラス 31 人が計 4 クラスあり、密を避けるために、クラスごとに授業をしました。

最も知ってほしいのは「自分たちの学校の設備品を整えることが、困っている学校への支援にもつながる」ということ。支援先の学校から届いた感謝のメッセージも紹介し、学校が本当に必要としているものが確実に届いていることを理解してもらいました。職員が図を用いて説明すると、子どもたちはしっかりと目で追い、真剣に聞いてくれました。



財団職員が問いかけると、積極的に挙手してくれた